

地域の架け橋 つながるココロ

地域の人の悩みや困りごとの相談に乗り、行政や福祉施設などにつなぐパイプ役として活躍する民生委員(※)。今回、民生委員として18年に渡り活動する渡邊さんに話を伺いました。

※民生委員…任期は3年で、児童委員も兼ねている。今年の12月に委嘱された市内の民生委員は199人。



塩原地区民生委員・児童委員協議会
渡邊 千恵子 会長

地域に寄り添い18年

18年前に旧塩原町の福祉課の職員から声を掛けられて民生委員になったという渡邊さん。地域で困っている人の声に耳を傾けたり、時に一人暮らしの高齢者宅などを訪問して相談を受けたりしては、行政へつないできた。「気軽に引き受けたのだけど、まさかここまで続けることになるとは」と感慨深い表情を見せながらも、「本当にあつという間。支えてくれた家族には感謝ですね」と長年の活動を振り返った。

渡邊さんは、この18年間に先任、

の委員だけでなく、多くの後任が辞めていくのを見送ってきた。「正直、大変なことも多いので、一緒に辞めたいなと思うこともありましたが」と正直な胸のうちを教えてくださいました。

新任の頃は、高齢者宅を訪問しても「知らない人」だと言って顔も出してもらえず、悩んだこともあった。それでも根気強く訪問して、何とか顔を覚えてもらい、世間話ができるようになったそう。また、早朝や真夜中に電話がかかってくることもしばしば。「具合が悪いので病院に連れて行ってほしい」と相談されたことや、「自宅の一階まで下りられ、

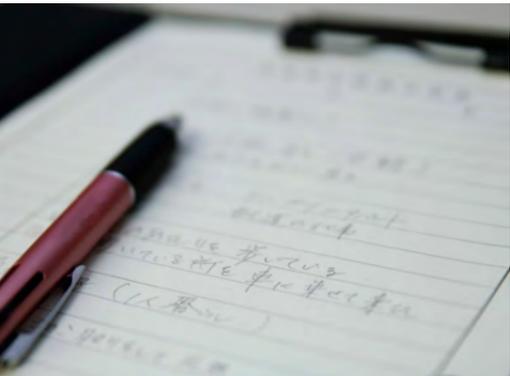
なくなった」というので2階から背負って下ろしたなんてことも。

地域の人のさまざまな困りごとに寄り添い、時に悩みながらも持ち前の明るさを武器に活動してきた渡邊さん。「大変なこともたくさんあったけれど、『渡邊さんがいてくれてよかった』と言われるのが一番うれしい」とやりがいを感じ、「できる限りは続けたいと思う。地域のために何かできるのがうれしいんです」と笑顔を見せてくれた。

子育て支援も大切な要素

民生委員は、児童委員も兼ねてい

るため、子どもの虐待の未然防止に取り組んでいる。近年は子どもに関する研修も多くなり、市内で子育て支援の活動を行っている団体へ話を聞きにも行ったそう。ひとり親、特に母親と子どもの場合は、母親のケアが重要で、うまくケアできれば、親子を引き離さずに済むこともあるという。「支援することで親子が仲良く暮らせるようになったときには『本当によかった』と思います」とこやかに話し、「塩原は子どもが少ないですが、今後も子どもに関する研修や取り組みを入れていきたいですね」と抱負を語ってくれた。



渡邊さんが記録しているノート

「最近の様子はどう?」「この前、友達を生きがいサロンに誘ってみたよ」といった世間話にも花が咲く。そうした何気ない会話からも、心配な人の情報や気になることなどの重要なメッセージが届くことも。地域での声かけや見回り際にはメモを取り、常にアンテナを高く張って活動している。



何でも話せることが一番うれしい

大塚 八重子 さん

家に来てくれたときだけでなく、生きがいサロンなどでばったり会ってもたくさん話をしますね。何でも話せるので、不安なことや近所で気にかけている人の話、世間話など聞いてもらっています。時間を忘れてついつい長話になってしまったりもして。

家に一人にいるときに、脳梗塞になったらと考えたり、急に心臓が痛くなったりすると不安になります。ご近所さんや民生委員さんには、「家のそばに来た時はお茶飲みついでに様子を見に来てね!」と言っています。不安も多いのですが、近所の人や民生委員さんとたくさん話ができるので、安心して暮らせています。